

Express5800/51Td,53We対応 Microsoft® Windows® XP Professional インストール補足説明書

本書ではExpress5800 Windows® XPサポートキットを使用して、「Microsoft® Windows® XP Professional 日本語版」(以降、「Windows XP」と呼びます。)をインストールする方法について記述しています。
Windows XPをインストールする前に、必ず最後までお読みください。

サポート装置

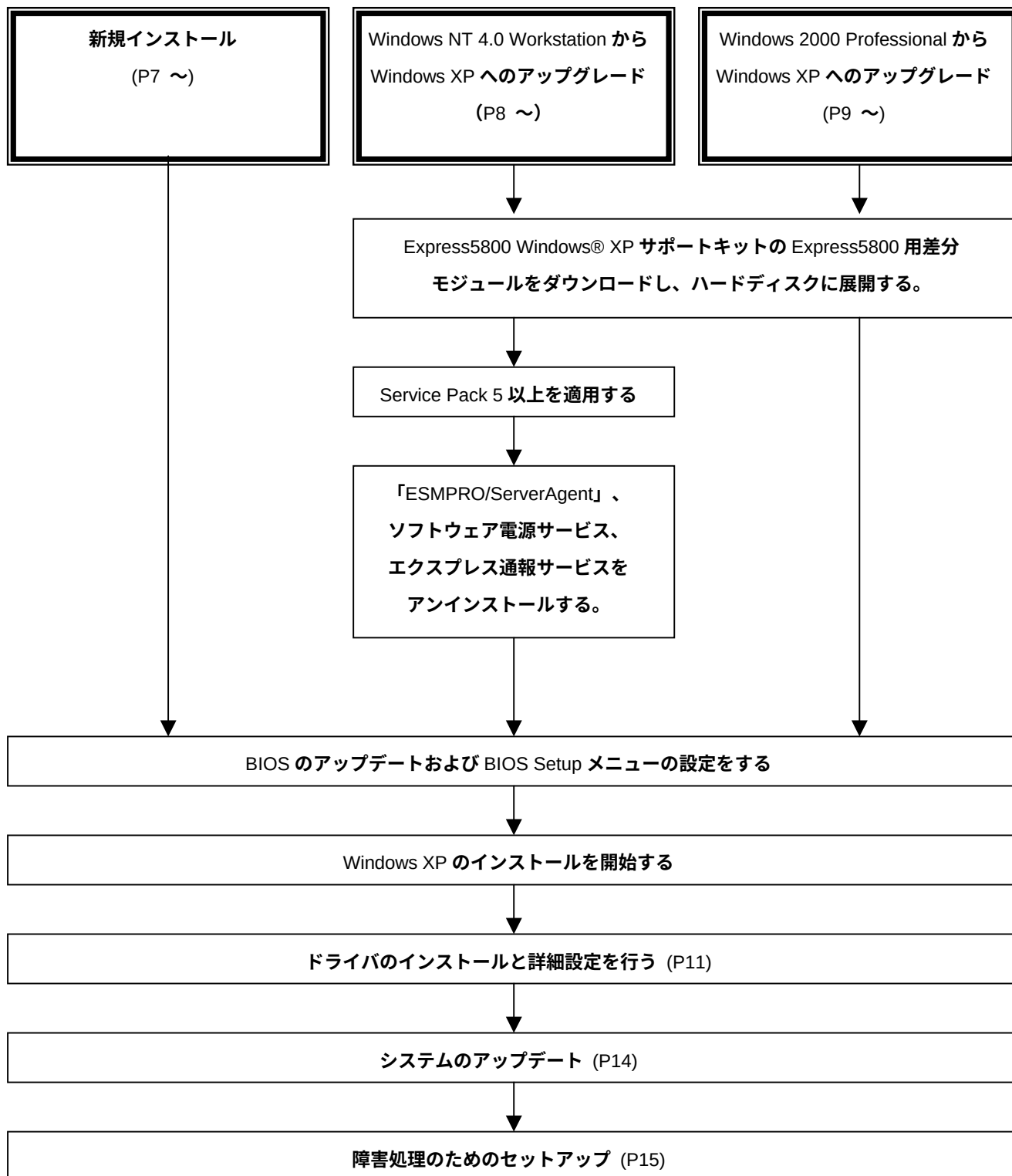
Express5800 Windows® XP サポートキットがサポートしている装置は以下のとおりです。
その他の装置ではご使用できません。

- Express5800/51Td (N8000-233,233A,234, 234A,235,235A
NP8000-233P1,233AP1,233P2, 233P3, 234P1)
- Express5800/53We(N8700-208)

注) Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。

Windows XP インストール方法概略図

Windows XP のインストール方法概略図を以下に示します。



Windows XP をインストールするための準備と注意

ここでは、Windows XP を正しくインストールするために、インストールを開始する前に知っておかなければならない注意事項について説明します。インストールを開始する前に必ずお読みください。

● インストールに必要なもの

インストールする前に、以下の媒体と説明書がそろっていることを確認してください。

- Express5800 Windows® XPサポートキット
(NEC Express5800 『58番街』 <http://express5800.com/XP/>からダウンロード)
- Express5800シリーズMicrosoft® Windows® XP Professionalインストール補足説明書(本書)
- 別途ご購入が必要なもの (以下のいずれかを購入してください)
Microsoft® Windows® XP Professional CD-ROM (アップグレード版)
Microsoft® Windows® XP Professional CD-ROM (特別アップグレード版)
Microsoft® Windows® XP Professional CD-ROM
(以降 Windows XP CD-ROMと呼びます)
- Express5800シリーズをお買い上げ時に添付されているもの
EXPRESSBUILDER CD-ROM
ユーザーズガイド

● Express5800用 差分モジュールのダウンロードについて

Windows XP へのアップグレードを行う場合は、あらかじめ、以下の手順で Windows® XP サポートキットの Express5800 用差分モジュールをダウンロードしてください。

- (1) NEC Express5800 『58 番街』 <http://express5800.com/XP/> の「Windows® XP サポートキット Download」ページのモデル名称を選択し、「Express5800 用差分モジュール」を選択する。
 - (2) モジュールをダウンロード後、ハードディスク上の任意のフォルダに展開する。(例：C:¥TEMP)
- 注意** ダウンロード先のフォルダには、空白文字を含むフォルダは指定できません。

● グラフィックスアクセラレータ ドライバのダウンロードについて

【Express5800/51Td Celeron モデル(N8000-233,233A,NP8000-233P1,233AP1,233P2,233P3)をご使用のお客様】

ディスプレイドライバは Windows XP CD-ROM に含まれていますのでダウンロードは不要です。

【上記以外のモデルをご使用のお客様】

NEC Express5800 『58 番街』 <http://express5800.com/XP/>の「ハードウェアの対応情報」ページの「グラフィックスアクセラレータ」の項目を選択し、ご使用のグラフィックスアクセラレータが Windows XP に対応しているか確認してください。Windows XP へのアップグレードを行う場合は、あらかじめ、以下の手順でディスプレイドライバをダウンロードしてください。

- (1) NEC Express5800 『58 番街』 <http://express5800.com/XP/>の「サポートキットダウンロード」ページのモデル名称を選択し、「Windows XP 用ドライバ」の項目からご使用のグラフィックスアクセラレータを選択する。

- (2) インストール手順にしたがってモジュールをダウンロード後、ハードディスク上の任意のフォルダに展開する。

● ディスクの「不明」な領域 Inactive(OS/2 Boot Manager) について

ディスク領域に、「不明」な領域 Inactive(OS/2 Boot Manager)が表示される場合があります。これは、構成情報やユーティリティを保存するための保守用パーティションですので、削除しないでください。

● BIOSのアップデート

Windows XP をインストールするためには、EXPRESSBUILDER CD-ROM を用いて、Windows XP 用の BIOS のアップデートが必要な場合があります。

BIOS のアップデートが必要かどうかは、NEC Express5800 『58 番街』 <http://express5800.com/XP/> の「Windows® XP サポートキット Download」ページのモデル名称を選択し、対応モジュールの有無を確認してください。

また、アップデートの手順に関しては、各装置の BIOS ダウンロード時の紹介文、およびダウンロードデータに含まれる「Readme.txt」を参照してください。

● ディスクミラーリングコントローラ(N8503-58,N8103-58)をご使用の場合

ディスクミラーリングコントローラ(N8503-58,N8103-58)を接続している場合、Windows XP では当ボードが未サポートの為、Windows XP にアップグレード、及び新規インストールすることができません。
(平成 13 年 12 月 27 日現在)

● ディスクミラーリングコントローラ(N8103-74)をご使用の場合

ディスクミラーリングコントローラ(N8103-74)を接続している場合、Windows XP に アップグレード、及び新規インストールする際にはボード添付のユーザズガイドを参照してください。
(平成 13 年 12 月 27 日現在)

● SCSIコントローラをご使用の場合

SCSI コントローラ(N8503-55,N8103-55)を接続している場合、Windows XP では当ボードが未サポートの為、Windows XP にアップグレード、及び新規インストールすることができません。
(平成 13 年 12 月 27 日現在)

SCSI コントローラ(N8503-55,N8103-55)をシステムより取り外して、Windows XP にアップグレード、及び新規インストールを行ってください。

● LANボード(N8504-85,N8104-85)をご使用の場合

LAN ボード(N8504-85,N8104-85)を接続している場合、Windows XP にアップグレードする前に、PROSet II、ドライバを削除してください。本サポートキットでは、PROSet II をサポートしていないため、PROSet II の機能は未サポートです。

● LANボード(N8504-85,N8104-85以外)をご使用の場合

LAN ボード(N8504-85,N8104-85 以外)を接続している場合、Windows XP では当ボードが未サポートの為、Windows XP にアップグレード、及び新規インストールすることができません。

(平成 13 年 12 月 27 日現在)

LAN ボード(N8504-85,N8104-85 以外)のドライバを削除し、当ボードをシステムより取り外して、Windows XP にアップグレード、及び新規インストールを行ってください。

● MO装置をご使用の場合

Windows XP にアップグレード、および新規インストール時に MO 装置を接続したまま作業を行うと、インストールに失敗することがあります。MO 装置を外してインストールを最初からやり直してください。MO 装置の取り付け、取り外し方法についてはユーザズガイド等を参照してください。

● 新規インストールについて

作成するパーティションサイズについて

システムをインストールするパーティションの必要最小限のサイズは、次の計算式から求めることができます。

1400MB + ページングファイルサイズ + ダンプファイルサイズ	
1400MB	= インストールに必要なサイズ
ページングファイルサイズ(推奨)	= 搭載メモリサイズ×1.5
ダンプファイルサイズ	= 搭載メモリサイズ+12MB

重要

- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(メモリダンプ)採取のために必要なサイズです。ページングファイルサイズの初期サイズを「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できない場合があります。
- その他アプリケーション等をインストールする場合は、別途そのアプリケーションが必要とするパーティションサイズを追加してください。

例えば、搭載メモリサイズが512MBの場合、必要最小限のパーティションサイズは、上記の計算方法から

$$1400\text{MB} + (512\text{MB} \times 1.5) + (512\text{MB} + 12\text{MB}) = 2692\text{MB}$$

となります。

システムをインストールするパーティションサイズが「インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ」より小さい場合はパーティションサイズを大きくするか、ディスクを増設してください。

ダンプファイルサイズを確保できない場合は、次のように複数のディスクに割りあててことで解決できます。

1. 「インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ」を設定する。
2. 本書の「障害処理のためのセットアップ」を参照して、デバッグ情報(ダンプファイルサイズ分)を別のディスクに書き込むように設定する。

(ダンプファイルサイズを書き込めるスペースがディスクにない場合は「インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ」でインストール後、新しいディスクを増設してください。)

ミラー化されているボリュームへのインストールについて

[ディスクの管理]を使用してミラー化されているボリュームにインストールする場合は、インストールの実行前にミラー化を無効にして、ベーシックディスクに戻し、インストール完了後に再度ミラー化してください。

ミラーボリュームの作成あるいはミラーボリュームの解除、および削除は[コンピュータの管理]内の[ディスクの管理]から行えます。

● アップグレードインストールについて

アップグレードする場合は、以下の点に注意してください。

- Windows NT 4.0 を Windows XP にアップグレードする前に、Service Pack 5 以降を適用してください。すでに Service Pack 5 以降が適用されている場合は不要です。
- アップグレードインストールを行う場合は、アップグレード対象の OS を格納したパーティションに、以下の空き容量が必要です。空き容量が不足している場合には、不要なファイルを削除するなどして、空き容量を確保してください。
 - ー Windows NT Workstation 4.0 の場合 …… およそ 1152MB
 - ー Windows 2000 Professional の場合 …… およそ 630MB
- アンインストールが必要なアプリケーションは以下のとおりです。(2001 年 12 月 27 日現在)
その他のアプリケーションについては、弊社の Web サイト等でご確認ください。
 - ・ ESMPRO/ServerAgent (Windows NT 4.0 からのアップグレード)
 - ・ ソフトウェア電源モジュール (Windows NT 4.0 からのアップグレード)
 - ・ エクスプレス通報サービス (Windows NT 4.0 からのアップグレード)
- Windows XP Professional 特別アップグレード版をご使用の場合は、Windows 2000 Professional からのアップグレードしか行えません。Windows NT Workstation 4.0 からアップグレードを行う場合は、Windows XP Professional か、Windows XP Professional アップグレード版をご使用ください。

Windows XP の新規インストール

ここでは、Windows XP の新規インストール方法について説明します。

重要 ここでは、アップグレード版CD-ROMはご使用になれません。

1. システムの電源をON にする。

注意 Windows XP用のBIOSのアップデートが必要な場合は、アップデートを行ってください。
BIOS の ア ッ プ デ ー ト が 必 要 か ど う か は、NEC Express5800 『58 番 街』
<http://express5800.com/XP/> の「Express5800 Windows® XP サポートキット Download」
ページのモデル名称を選択し、対応モジュールの有無を確認してください。

ディスプレイ装置の画面にPOST（Power On Self-Test）の実行内容が表示されます。

（「NEC」ロゴが表示された場合は<Esc>キーを押してください。）

しばらくすると、次のメッセージが画面左下に表示されます。

Press <F2> to enter SETUP

2. <F2>キーを押し、BIOS Setupメニューの「Advanced」→「Installed O/S」を「PnP O/S」に設定する。
設定方法は機種によって異なりますので、詳しくは各装置のBIOSダウンロードデータに含まれる「Readme.txt」を参照してください。
3. BIOS Setup メニューの「Exit」→「Save Changes & Exit」を選択し、[Yes]を選択してシステムを再起動させる。

4. Express ワークステーションのCD-ROM ドライブにWindows XP CD-ROMをセットする。

5. <CTL> + <ALT> + を押してシステムをリセットする。

ハードディスク上に起動可能なOS がインストール済の場合は、画面上部に

「Press any key to boot from CD...」が表示がされている間に <Enter> キーを押す。

ハードディスク上に起動可能なOSが存在しない場合は不要です。

Windows XPのセットアップ画面が表示されます。

画面が表示されなかった場合は、<Enter> キーが正しく押されていません。

もう一度システムの電源をON し直してから始めてください。

以降は、メッセージに従って作業を続けてください。

インストール終了後、必ず本書の「ドライバのインストールと詳細設定」及び「システムのアップデート」を実行してください。

Windows NT 4.0 から Windows XP へのアップグレードインストール

Windows NT 4.0 がインストールされている装置を Windows XP にアップグレードする手順を次に示します。

重要 ここではWindows XP Professional特別アップグレード版 CD-ROMは使用できません。

1. システムの電源をON にし、Windows NT 4.0を起動する。
2. Service Pack5以降を適用する。
すでに、Service Pack5以降が適用されている場合は不要です。
3. システムに「ESMPRO/ServerAgent」や、ソフトウェア電源サービス、エクスプレス通報サービスがインストールされている場合は、アンインストールする。

ソフトウェア電源サービスは、以下のようにアンインストールしてください。

- (1) コマンドプロンプトを開きます。
- (2) powerdel と入力してリターンキーを押してください。
- (3) 以下のメッセージが表示されます。

重要 Windows 2000は、Windows XPと読み替えてください。

「ソフトウェア電源モジュールはWindows 2000 Upgradeに先だってアンインストールする必要があります。ソフトウェア電源モジュールのアンインストールを開始しますか(Y/N)?」

アンインストールを行う場合は、Y または y と入力してリターンキーを押してください。

アンインストールが開始されます。

Y または y 以外を入力した場合、アンインストールは中断されます。

4. システムを再起動する。

注意 Windows XP用のBIOSのアップデートが必要な場合は、アップデートを行ってください。
BIOS の ア ッ プ デ ー ト が 必 要 か ど う か は、NEC Express5800 『58 番 街』
<http://express5800.com/XP/> の「Express5800 Windows® XP サポートキット Download」
ページのモデル名称を選択し、対応モジュールの有無を確認してください。

5. Windows NT 4.0を起動し、管理者権限のあるアカウント(administrator等)でログオンする。
6. Windows XP CD-ROM をCD-ROM ドライブにセットする。
[実行する操作の選択]画面が表示されます。

ヒント [実行する操作の選択]画面が表示されない場合は、<CD-ROM ドライブ>:\\$SETUP.EXE を実行してください。

7. [Windows XPをインストールする]を選択する。
アップグレードか新規インストールかを選択するダイアログボックスが表示されます。

8. [アップグレード(推奨)]を選択し、[次へ]をクリックする。
メッセージに従って作業を続けてください。
9. 以下のメッセージが表示されたら、[次へ]をクリックする。

Microsoft Windows XP Professional **セットアップ** ダイアログ
次の項目は Windows XP と互換性がありません。
 Yamaha AC-XG NT4 Audio Drivers
 : (任意)
**続行する場合、セットアップを完了してもこれらの項目を使用
 できなくなる可能性があります。**

注 意 サウンドドライバは、OSアップグレード後にインストールします。

10. ファイルのコピー終了後、自動的に再起動する。

Windows XP CD-ROMはCD-ROMドライブに挿入したままでかまいません。

ディスプレイ装置の画面にPOST（Power On Self-Test）の実行内容が表示されます。

（「NEC」ロゴが表示された場合は<Esc>キーを押してください。）

しばらくすると、次のメッセージが画面左下に表示されます。

Press <F2> to enter SETUP

11. <F2>キーを押し、BIOS Setup メニューの「Advanced」→「Installed O/S」を「PnP O/S」に設定する。設定方法は機種によって異なりますので、詳しくは各装置のBIOSダウンロードデータに含まれる「Readme.txt」を参照してください。
12. BIOS Setup メニューの「Exit」→「Save Changes & Exit」を選択し、[Yes]を選択してシステムを再起動させる。

以降は、メッセージに従って作業を続けてください。

インストール終了後、必ず本書の「ドライバのインストールと詳細設定」および「システムのアップデート」を実行してください。

Windows 2000 から Windows XP へのアップグレードインストール

Windows 2000 がインストールされている装置を Windows XP にアップグレードする手順を示します。

1. システムの電源を ON にし、Windows 2000 を起動する。

注 意 Windows XP用のBIOSのアップデートが必要な場合は、アップデートを行ってください。
 BIOS の ア ッ プ デ ー ト が 必 要 か ど う か は 、 NEC Express5800 『58 番 街』
<http://express5800.com/XP/> の「Express5800 Windows® XP サポートキット Download」
 ページのモデル名称を選択し、対応モジュールの有無を確認してください。

2. 管理者権限のあるアカウント(administrator等)でログオンする。
Express5800用差分モジュールをダウンロードしていない場合は、「Windows XPをインストールするための準備と注意」の「Express5800用差分モジュール」を参照し、ダウンロードする。
3. Windows XP CD-ROM をCD-ROM ドライブにセットする。
[実行する操作の選択]画面が表示されます。



[実行する操作の選択]画面が表示されない場合は、<CD-ROM ドライブ>:\\$SETUP.EXE を実行してください。

4. [Windows XPをインストールする]を選択する。
アップグレードか新規インストールかを選択するダイアログボックスが表示されます。
5. [アップグレード(推奨)]を選択し、[次へ]をクリックする。
しばらくすると、以下のメッセージが表示される場合があります。表示された場合は、[OK]をクリックして、手順6に進んでください。表示されない場合は、メッセージに従って作業を続けてください。

ディスクの挿入

'YAMAHA AC-XG WDM Installation disk'のラベルの付いた
CD を CD-ROM ドライブ(D:\\$)に挿入して、[OK]をクリックしてください。
フロッピーディスクなど、別の場所からコピーする場合も
[OK]をクリックしてください。

6. 「(例: C:\\$TEMP)\\$INSTDISK\\$SOUND\\$AW2138N」と入力する。
7. [OK]をクリックする。
[OK]をクリックしても再入力になる場合は、[キャンセル]をクリックしてください。
[キャンセル]をクリックした場合は、「ドライバのインストールと詳細設定」→「サウンドドライバ」
→「Windows 2000からWindows XPへアップグレードした場合」を参照して、サウンドドライバをインストールしてください。

以降は、メッセージに従って作業を続けてください。

インストール終了後、必ず本書の「ドライバのインストールと詳細設定」および「システムのアップデート」を実行してください。

ドライバのインストールと詳細設定

Windows XP のインストールが終了し、システムを再起動後、各種ドライバのインストールとセットアップを行ってください。

標準装備のネットワークドライバやディスプレイドライバ、サウンドドライバは、既にインストール済みです。必要に応じてプロトコルやサービスの追加／削除を行ったり、転送速度やデュプレックスの設定、表示の設定などをそれぞれ行ってください。

ここで記載されていないドライバのインストールやセットアップについては、ドライバに添付の説明書を参照してください。

システムの修復を行った場合も、必ず各種ドライバをインストールし直してください。

グラフィックスアクセラレータドライバ

【Express5800/51Td Celeron モデル(N8000-233,233A,NP8000-233P1,233AP1,233P2,233P3)をご使用のお客様】

ディスプレイドライバは Windows XP インストール時に自動的にインストールされます。

【上記以外のモデルをご使用のお客様】

ディスプレイドライバをダウンロード後、展開されたファイルに含まれる「READ1ST.TXT」の手順にしたがってディスプレイドライバのインストールを行ってください。

ネットワークドライバ

インストールされたネットワークドライバは、転送速度/Duplex モードの設定が必要です。OS のインストール後に、以下の手順で設定してください。

重要 ネットワークドライバを削除してしまった場合は、システムを再起動してください。
自動的にインストールされます。

- ヒント**
- サービスの追加で[ネットワークモニタ]を追加することをお勧めします。[ネットワークモニタ]は、[ネットワークモニタ] をインストールしたコンピュータが送受信するフレーム(またはパケット)を監視することができます。ネットワーク障害の解析などに有効なツールです。
 - ここでは、表示方法が以下のように設定されている時の手順を記載しています。
 - ー [タスクバーと[スタート]メニューのプロパティ]の[スタート]メニュー]タブ
[[スタート]メニュー]が選択されている。
 - ー [フォルダオプションで、[フォルダに共通の作業を表示する]が選択されている。

1. スタートメニューから[コントロールパネル]を選択する。

[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。

2. [コントロールパネル]ウィンドウから、[ネットワークとインターネット接続]をクリックする。

[ネットワークとインターネット接続]ウィンドウが表示されます。

ヒント

クラシック表示にしている場合は、[コントロールパネル]から直接[システム]をクリックしてください。

3. [ネットワークとインターネット接続]ウィンドウから[ネットワーク接続]をクリックする。
[ネットワーク接続]ウィンドウが表示されます。
4. [ローカルエリア接続]アイコンを右クリックし、ポップアップメニューから[プロパティ]をクリックする。
[ローカルエリア接続のプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
5. [構成]をクリックする。
ネットワークアダプタのプロパティダイアログボックスが表示されます。
6. [詳細設定]タブをクリックし、「Link Speed & Duplex」を HUB の設定値と同じ値に設定する。
7. ネットワークアダプタのプロパティダイアログボックスの[OK] をクリックする。

サウンドドライバ

< 新規インストール及びWindows NT 4.0からWindows XPへアップグレードした場合 >

以下の手順にしたがって「YAMAHA YMF743 ドライバ」をインストールしてください。

ヒント

- ここでは、表示方法が以下のように設定されている時の手順を記載しています。
 - － [タスクバーと[スタート]メニューのプロパティ]の[スタート]メニュー]タブ
[[スタート]メニュー]が選択されている。
 - － [フォルダオプションで、[フォルダに共通の作業を表示する]が選択されている。

1. スタートメニューから[コントロールパネル] を選択する。
[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。
2. [サウンド、音声、およびオーディオ デバイス]アイコンをダブルクリックする。
3. [サウンドとオーディオ デバイス] アイコンをクリックする。
[サウンドとオーディオ デバイスのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
4. [ハードウェア] タブをクリックする。
5. [デバイス]の一覧中で、[VIA AC'97 Audio Controller (WDM)] を選択し、[プロパティ]をクリックする。
[VIA AC'97 Audio Controller (WDM)のプロパティ]ダイアログが開きます。
6. [ドライバ]タブを選択し、[ドライバの更新]をクリックする。
[ハードウェアの更新ウィザード]ウィンドウが表示されます。
7. [一覧または特定の場所からインストールする(詳細)]のラジオボタンを選択し、[次へ(N)]をクリックする。

8. [次の場所で最適のドライバを検索する]ラジオボタンが選択されていることを確認し、[リムーバブルメディア(フロッピー、CD-ROM など)を検索]のチェックボックスのチェックを外し、[次の場所を含める]のチェックボックスをチェックする。
9. [(例: C:¥TEMP)¥INSTDISK¥SOUND¥AW2138N]を入力し、[次へ(N)]をクリックする。しばらくして[ハードウェアの更新ウィザードの完了]画面が表示されますので、[完了]をクリックする。
10. [YAMAHA AC-XG Audio Device のプロパティ]ダイアログボックスで、[閉じる]をクリックする。
11. [サウンドとオーディオ デバイス]、[サウンド、音声、およびオーディオ デバイス]ウィンドウを閉じる。
12. システムを再起動してください。

< Windows 2000 から Windows XP へアップグレードした場合 >

Express5800/53We を使用している場合、アップグレード後にデバイスマネージャのサウンドに「！」マークが表示された場合は、「YAMAHA YMF743 ドライバ」をインストールする必要があります。

以下の手順で、インストールしてください。

ヒント

- ここでは、表示方法が以下のように設定されている時の手順を記載しています。
 - ー [タスクバーと[スタート]メニューのプロパティ]の[スタート]メニュー]タブ
[[スタート]メニュー]が選択されている。
 - ー [フォルダオプションで、[フォルダに共通の作業を表示する]が選択されている。

1. スタートメニューから[コントロールパネル]を選択する。
[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。
2. [サウンド、音声、およびオーディオ デバイス]アイコンをダブルクリックする。
3. [サウンドとオーディオ デバイス] アイコンをクリックする。
[サウンドとオーディオ デバイスのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
4. [ハードウェア] タブをクリックする。
5. [デバイス]の一覧中で、[YAMAHA AC-XG Audio Device]を選択し、[プロパティ]をクリックする。
[YAMAHA AC-XG Audio Device のプロパティ]ダイアログボックスが開きます。
6. [全般]タブを選択し、[ドライバの再インストール]をクリックする。
7. [ハードウェアの更新ウィザード]ウィンドウが表示されます。
8. [一覧または特定の場所からインストールする(詳細)]のラジオボタンを選択し、[次へ(N)]をクリックする。

9. [次の場所で最適のドライバを検索する]ラジオボタンが選択されていることを確認し、[リムーバブルメディア(フロッピー、CD-ROM など)を検索]のチェックボックスのチェックを外し、[次の場所を含める]のチェックボックスをチェックする。
10. [(例: C:¥TEMP)¥INSTDISK¥SOUND¥AW2138N]を入力し、[次へ(N)]をクリックする。しばらくして[ハードウェアの更新ウィザードの完了]画面が表示されますので、[完了]をクリックする。
11. [YAMAHA AC-XG Audio Device のプロパティ]ダイアログボックスで、[閉じる]をクリックする。
12. [サウンドとオーディオ デバイス]、[サウンド、音声、およびオーディオ デバイス]ウィンドウを閉じる。
13. システムを再起動してください。

システムのアップデート

Windows XP のインストール後、必ず以下の手順でシステムのアップデートを行ってください。
Express5800 用差分モジュールをダウンロードしていない場合は、「Windows XP をインストールするための準備と注意」の「Express5800 用差分モジュール」を参照し、ダウンロードしてください。

1. 管理者権限のあるアカウント(administrator 等)で、システムにログオンする。
2. (例: C:¥TEMP)¥INSTDISK¥UPDATE¥UPDATE.VBE を実行する。
セットアップメッセージが表示されます。
3. システムのアップデートを継続する場合は[OK]をクリックする。
4. [コンピュータの再起動]をクリックしてシステムを再起動する。

障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしておいてください。

メモリダンプ(デバッグ情報)の設定

Express ワークステーション内のメモリダンプ（デバッグ情報）を採取するための設定です。

本書の「システムのアップデート」を行った後、以下の設定になっていることを確認してください。

重要

メモリダンプの注意

- メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。
- ここで示す設定後、障害が発生した時にメモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。メモリダンプが保存される前に起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。

次の手順に従って設定します。

ヒント

ここでは、表示方法が以下のように設定されている時の手順を記載しています。

- － [タスクバーと[スタート]メニューのプロパティ]の[スタート]メニュー]タブ
[[スタート]メニュー]が選択されている。
- － [フォルダオプションで、[フォルダに共通の作業を表示する]が選択されている。

1. スタートメニューから[コントロールパネル]をクリックする。
[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。
2. [コントロールパネル]ウィンドウから[パフォーマンスとメンテナンス]をクリックする。

ヒント

クラシック表示にしている場合は、[コントロールパネル]から直接[システム]をクリックしてください。

3. [システム]をクリックする。
[システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
4. [詳細設定]タブをクリックする。
5. [起動/回復]ボックスの[設定]をクリックする。
6. テキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力する。
<Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>

D:¥ MEMORY.DMP

重要 メモリダンプの注意

- [デバッグ情報の書き込み]は[カーネルメモリダンプ]を指定することを推奨します。
- Expressワークステーションに搭載しているメモリサイズ+12MB以上の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設を行った場合は、採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)書き込み先の空き容量を確認してください。
- 搭載メモリサイズが2GB以上の場合は完全メモリダンプは選択できなくなります。

7. [OK]をクリックする。

[システムのプロパティ]ダイアログに戻ります。

8. [パフォーマンス]ボックスの[設定]をクリックする。

[パフォーマンスオプション]ウィンドウが表示されます。

9. [パフォーマンスオプション]ウィンドウの[詳細設定]タブをクリックする。

10. [仮想メモリ]ボックスの[変更]をクリックする。

11. [選択したドライブのページングファイルサイズ]ボックスの[初期サイズ]を[推奨]値以上に変更し、[設定]をクリックする。

ページングファイルの[初期サイズ]は、搭載メモリサイズの約1.5倍を目安に設定してください。

重要

- 必ずOSパーティションに上記のサイズで作成してください。
- ページングファイルの初期サイズを「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報を採取できない場合があります。
- メモリを増設した際は、メモリサイズに合わせてページングファイルを再設定してください。
- 再セットアップを行った場合は、ページングファイルがOSパーティション以外のパーティションに作成されることがあります。ページングファイルを作成するドライブを任意に変更してください。

12. [OK]をクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

ワトソン博士の設定

Windows ワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバッグです。アプリケーションエラーを検出すると Express ワークステーションを診断し、診断情報（ログ）を記録します。

診断情報を採取できるよう次の手順に従って設定してください。

1. スタートメニューの [ファイル名を指定して実行] をクリックする。

2. [名前]ボックスに [drwtsn32.exe] と入力し、[OK]をクリックする。

[ワトソン博士]ダイアログボックスが表示されます。

3. [ログファイルパス]ボックスに診断情報の保存先を指定する。
[DRWTSN32.LOG] というファイル名で保存されます。

注意 ネットワークパスは指定できません。
ローカルコンピュータ上のパスを指定してください。

4. [クラッシュダンプ]ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。
「クラッシュダンプファイル」はWindows Debugger で読むことができるバイナリファイルです。
5. [オプション]ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。
- ☐ ダンプシンボルテーブル
 - ☐ すべてのスレッドコンテキストをダンプ
 - ☐ 既存のログファイルに追加
 - ☐ クラッシュダンプファイルの作成

6. [OK]をクリックする。

ネットワークモニタのインストール

ネットワークモニタを使用することによりネットワーク障害の調査や対処に役立てることができます。ネットワークモニタを使用するためには、インストール後、システムの再起動を行う必要がありますので、障害が発生する前にインストールしておくことをお勧めします。

1. スタートメニューから[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。
[コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。
2. [アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックする。
[アプリケーションの追加と削除]ダイアログボックスが表示されます。
3. [Windows コンポーネントの追加と削除]をクリックする。
[Windows コンポーネント ウィザード]ダイアログボックスが表示されます。
4. コンポーネントの[管理とモニタツール]チェックボックスをオンにして[次へ]をクリックする。
5. ディスクの挿入を求めるメッセージが表示された場合は、Windows XP CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットして[OK]をクリックする。
6. [Windows コンポーネント ウィザード]ダイアログボックスの[完了]をクリックする。
7. [アプリケーションの追加と削除]ダイアログボックスの[閉じる]をクリックする。
8. [コントロールパネル]ダイアログボックスを閉じる。
ネットワークモニタは、スタートメニューから[プログラム]→[管理ツール]をポイントし、[ネットワークモニタ]をクリックすることにより、起動することができます。
操作の説明については、オンラインヘルプを参照してください。

トラブルシューティング

Express ワークステーションが思うように動作しない場合は修理に出す前に次のチェックリストの内容に従って Express ワークステーションをチェックしてください。リストにある症状に当てはまる項目があるときは、その後の確認、処理に従ってください。

それでも正常に動作しない場合は、ディスプレイ装置の画面に表示されたメッセージを記録してから、保守サービス会社に連絡してください。

なお、ここに上げている症状は、Windows XP にて新たに発生するトラブルシューティングです。

その他の症状につきましては、お手持ちのユーザーズガイドを参照してください。

? OSを起動できない

☐ BIOS の設定を間違えていませんか？

→BIOS のセットアップユーティリティで設定を確認してください。

<確認するメニュー>

「Advanced」→「Installed O/S」を「PnP O/S」

(注意) 設定方法は機種によって異なりますので、詳しくは各装置のBIOSダウンロードデータに含まれる「Readme.txt」を参照してください。

? OS がうまくインストールできない

☐ BIOS の設定を間違えていませんか？

→BIOS のセットアップユーティリティで設定を確認してください。

<確認するメニュー>

「Advanced」→「Installed O/S」を「PnP O/S」

(注意) 設定方法は機種によって異なりますので、詳しくは各装置のBIOSダウンロードデータに含まれる「Readme.txt」を参照してください。

? 障害発生時、「自動的に再起動する」の設定で、設定通りに動作しない

☐ 障害発生時に「自動的に再起動する」の設定にかかわらず、自動的に再起動する場合や再起動しない場合があります。

再起動しない場合は、手動での再起動をお願いします。

? ブルー画面で電源断できない

☐ ブルー画面にて電源断する時には、強制電源OFF(電源スイッチを5秒以上押しっぱなしにする)を行ってください。

一度押しでは電源断は出来ません。

? イベント ビューアに下記内容のEventSystemの警告が登録される

説明：COM+ イベント システムは、サブスクリプション

{.....} で ConnectionMade メソッドでの開始に失敗しました。

サブスクライバは HRESULT 80004001 を返しました。

- ☐ シャットダウンおよび再起動を実施した場合に登録されることがありますが、運用上は特に問題はありません。



イベント ビューアに下記内容のUserenvの警告が登録される

説明： ログオフ時にアプリケーションまたはサービスがレジストリをまだ使用している間に Windows はユーザー XXXXX¥xxxx のレジストリを保存しました。

ユーザーのレジストリによって使用されたメモリは解放されていません。レジストリは使用されなくなったときにアンロードされます。

ユーザー アカウントとしてサービスを実行していることが原因と考えられます。

LocalService または NetworkServiceアカウントでサービスを構成してみてください。

説明： クラス レジストリ ファイルをアンロードできません。

ほかのアプリケーションまたはサービスによって使用されています。

ファイルが使用されなくなった後にアンロードされます。

- ☐ ネットワーク上の共有フォルダに接続し、エクスプローラを起動したままシャットダウン等を実施した場合に登録されることがあります。

エクスプローラを閉じてからシャットダウン等を実施してください。

システムの修復

何らかの原因でシステムを起動できなくなった場合は、回復コンソールを使用してシステム修復を行います。ただし、この方法は詳しい知識のあるユーザーや管理者以外にはお勧めできません。

詳細については、オンラインヘルプを参照してください。